

理論・実践に立脚したインターネットアーキテクチャ論文特集の発行にあたって



理論・実践に立脚したインターネットアーキテクチャ論文特集編集委員会

委員長 飯田 勝吉

インターネットは重要な社会基盤として幅広く利用されており、また新しい利用方法が次々に提案されている。たとえば、物のインターネット (IoT) や Software-Defined Networking (SDN) などが研究開発され、普及段階を迎えている。一方で、インターネット上のセキュリティ攻撃、インターネット中立性の課題など、解決すべき課題が多数出現している。

しかし、上記はいずれも社会への進展や問題の発生が先に発生し、研究コミュニティからの状況分析や問題解決法の提案が遅れがちであり、一層の研究活動の活発化が求められていると言える。だからと言って、突拍子もないアイデアの提案が求められているわけではなく、インターネット研究者が常用している、理論に基づく分析や、実践に立脚した問題解決などの研究手法を用いて、地道に研究を進めることが重要である。このようなアクティビティを地道に行うことが、結果的に社会のニーズにこたえる方法だと考えられる。

これらの状況を踏まえ、インターネットの新たな利用方法に関する分析、応用・運用技術、テストベッドネットワークを用いた実証的な検証、更にはインターネット上の課題を解決方法の提案などを対象とした「理論・実践に立脚したインターネットアーキテクチャ論文特集」を企画した。

本特集では、まず九州大学実積寿也教授から「ネットワーク中立性と品質情報開示——経済学的観点からの分析——」というタイトルでネットワーク中立性を研究する経済学者のお立場から論文を執筆頂いた。またインターネットコンファレンス 2014優秀論文及びインターネットアーキテクチャ研究専門委員会推薦論文を含む15編の投稿を頂いた。その中から慎重な査読・審議を経た結果、論文8編を採録することとした。採録論文の分野は通信性能向上方式、ネットワークセキュリティ等の基盤技術から、それらの実社会への応用技術並びにシステム開発など多岐にわたり、本特集における企図であった、理論・実践に立脚したインターネットアーキテクチャに関する様々な技術を網羅することができた。

最後に、本特集の発行に際し、最新の研究成果を御投稿頂いた著者の皆様、御多忙中にもかかわらず精力的に御協力頂いた編集委員及び査読委員の皆様、本特集の発行のために陰ながら的確に御支援頂いた事務局の皆様へ深く感謝する。

いづど かつよし
飯田 勝吉 (正員：シニア会員) 平10奈良先端大・情報科学・博士前期課程了。平13博士 (情報工学) 取得 (九工大)。平成12奈良先端大・情報科学・助手。現在、東工大・学情センター・准教授。ネットワークシステム工学、ネットワークシステムの性能解析に関する研究に従事。平15テレコムシステム技術賞。

理論・実践に立脚したインターネットアーキテクチャ論文特集編集委員会

委員長	飯田 勝吉
幹事	山井 成良・長谷川 洋平
委員	石橋 圭介・石原 知洋・伊藤 嘉浩・大崎 博之
	柏崎 礼生・神屋 郁子・川喜田 佑介・高井 昌彰
	塚本 和也・友石 正彦・野林 大起・橋本 浩二
	樋地 正浩・南 政樹・森 達哉